

「湯の街別府から」10回目「砂湯を体験してみては？」

別府八湯の温泉を満喫して、さらに少し変わった温泉も体験したいという温泉好きにお勧めなのが”砂湯”。別府市内には3か所の砂湯を体験できる施設があるが、中でも人気があるのが「別府海浜砂湯」で、文字通り海辺の近くにある砂の温泉だ。JR西日本の日豊線別府大学駅から、別府湾に向かって5分ほど歩いた場所であり、3月から11月の期間は午前8時半から午後6時まで、12月から2月は午前9時から午後5時まで開いている。



国道沿いの別府海浜砂湯の看板

別府八湯の中で、この砂湯に似た温泉として、明礬温泉エリアに”泥湯”という温泉があるが、こちらは湯の中に入ると泥が沈殿していて、その泥を全身に塗ったりして楽しむが、砂湯は水分が少なく、砂場に寝転んで、全身に砂をかけてもらって温まるという方式。もちろん裸ではなく、浴衣を着て砂の上に横たわるので、男女一緒に体験することができる。

砂湯は、別府温泉郷として栄えるようになった1800年代末期からあったようで、近年になって1960年代前後からの急激な温泉開発に伴い、別府湾の海岸沿いに何か

所も開設された。海岸の砂浜にも温泉が湧き出すので、幾つもの天然砂湯に大勢の湯治客で賑わっていたという。しかし、国道の整備や港湾整備などで海岸が埋め立てられ、天然の砂湯が体験できる砂浜がなくなってしまった。

そこで、別府市がかつての砂湯を復活させるため、1986年に唯一自然の海岸線が残る上人ヶ浜に現在の「別府海浜砂湯」を開設した。ちなみに、上人ヶ浜はその昔、僧侶の一遍上人（1239-89年、時宗の開祖）が小舟でこの地に上陸したことから名付けられたという。



別府海浜砂湯の入り口

前述したとおり、砂湯は泥湯と違って、湯の中に入るのではなく、温かい砂に寝転んで心身を癒すもの。入り方は、まず入り口で大人一人1500円の入浴料を支払、浴衣と番号札を受け取る。この時気をつけたいのが、砂湯を楽しんだあとにシャワーや温泉に入浴した体を拭くタオルを持参すること。でないと、入浴料とは別にタオルを購入しなければならない、余計な出費になるからだ。別府を訪れる観光客にとってタオルは必需品で、常に持って歩くことが半ば常識なのである。そうすれば、街を歩いていて、ふと見つけた共同温泉や足湯を気軽に利用したいとき、濡れた後のことを気にせず済むからだ。



砂湯を体験するには大人一人1500円が必要



砂湯を楽しむ利用客



浴衣に着替えて、休憩室などで待機していると、自分の番号がアナウンスされ、係の者に砂場へと案内されるので、言われた場所に寝転べばよい。あとは係の者が顔を除いて全身に砂をかけてくれるので、黙って任せていると体がポカポカと暖かくなる。ものの10分から15分すると、顔から汗が出てきて極楽状態に。目を開ければ青い空、目を閉じれば波の音。これが砂湯の楽しみ方だ。

別府市内には、海浜砂湯の他にもレトロな建物で知られる竹瓦温泉とスパランドの「ひょうたん温泉」にも砂湯があるが、ひょうたん温泉は乾いた砂を自力で体に掛けなければならず、竹瓦温泉は室内なので今一気分が盛り上がらない。やはり、開放感ある大空の下で砂湯を体験した方が最高だ。

別府で温泉の楽しみ方は、それなりに奥が深く、湯船に浸かるだけではないのが売り物。是非一度砂湯を体験してみたいだろうか。



砂湯に隣接している無料の足湯。

文／写真：鈴木源柱